

ぎやらりー



NO. 100

2023 年 1 月号



北区会 趣味の会 折り紙

編集・発行 NPO 法人グループわ (南 謙二) ホームページ <http://www.wa-net.jp/group-wa/>

〒651-1106 神戸市北区あわせの村 1 番 16 号 神戸市シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX078-743-3830 2023 年 1 月 17 日発行

「ぎやらりーわ 100 号を記念して 1998 年 5 月の第 1 号から 99 号までの表紙デザインの遷移」



ボランティアの
輪をひろげよう

ぎやらりーわ 100 号 記念特集

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| ■ぎやらりーわ 表紙デザインの遷移……………表紙 | ■KSC 男声合唱団第 8 回定期演奏会 …… 9 |
| ■100 号 挨拶……………2 | ■ビバ！ハロウィン こうべっこひろば…………… 9 |
| ■グループわ 本部の紹介……………3 | ■「ぎやらりーわ」創刊号からこれまでの歩み…… 10 |
| ■区会の紹介……………5 | ■グループわ 25 年の歩み…………… 11 |
| ■部会の紹介……………7 | ■カレッジだより・わだより・トピックス…………… 12 |

ぎやらりーわ 発行 100 号記念に際して



特定非営利法人社会還元センターグループわ 理事長 南 謙二

グループわ 会員の皆さまならびに関係団体の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

1997 年 7 月、「神戸市シルバーカレッジ社会還元センター 愛称：グループ“わ”」が設立され、1 年後の 1998 年 5 月に KSC 社会還元センター “わ”ふれあい として第 1 号が創刊されました。

2000 年 2 月発行の第 9 号から “情報ぎやらりー”、2011 年 7 月発行の第 55 号から現在の“ぎやらりーわ”に呼称を変更して今に至っています。その間の 2004 年 4 月にはグループわ を NPO 法人化し、名称も現在の「特定非営利法人社会還元センターグループわ」となっています。

創刊以来 24 年間、会員の確保、各種ボランティア活動、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害などへの支援活動、子どもたちの健全育成活動、各種公益事業受託などを積極的に展開し、2005 年に神戸市長から市民福祉奨励賞、2006 年に高齢者社会参加活動の模範として内閣特命担当大臣から「参加章記念盾」を受けています。

これらの活動は年 4 回発行されるグループわ の情報誌である“ぎやらりーわ”を通じてグループわ 会員はじめ、神戸市内関係官庁に送られ、グループわ の活動を発信してきたと同時に活動へのご理解と高評価をいただくのに大いに貢献してきたと考えております。

2003 年 4 月からグループ“わ”のホームページを立ち上げ、グループ“わ”会員はじめ一般社会へ我々の活動をリアルタイムに発信し、また、いろいろなお意見、問い合わせに対応し双方向のコミュニケーションを大切にしてきました。今後も情報発信力を充実させ活動を継続していく所存です。最後になりましたが、コロナ感染状況は今後も沈静方向に向かうことを期待しますが、グループわ 会員の皆さまにとって今年はボランティア活動はじめ種々活動が制限を受けることなくできることを祈念するとともに、ご家族皆さまにとって良き年となりますようお願いしております。

「再び学んで他のために」への期待

公益財団法人 こうべ市民福祉振興協会会長 三木 孝



「ぎやらりーわ」の 100 号発行を心からお祝い申し上げます。

1995 年 1 月の阪神・淡路大震災で壊滅的な打撃を受けた神戸市の災害救助拠点として自衛隊も常駐していた「しあわせの村」で、休校中のシルバーカレッジの 2 年生が自主的に物資の仕分けや村内の仮設住宅の支援など、ボランティアとして活躍されたのが「社会還元センターグループ“わ”」の起源であり、その理念が「再び学んで他のために」の実践であることは、会員の皆さんがご承知のとおりです。

初代学長の故今井鎮雄先生が提唱されたこの建学の精神は、9 月入学制や入学試験実施と共に、ご自身の国際的な YMCA 活動の実践からの発案だったと思います。大震災の発生以降 20 万人を超える被災市民の膨大な災害救助業務に心身共に疲弊していた当時民生局の私にとって、休校中のシルバーカレッジの学生の皆さんが建学の精神を実践されたとのお話には新鮮に驚いた記憶があります。この驚きは市役所内のみならず報道により神戸市内にも広がり、川崎重工業（株）様からの寄付による社会還元センターの活動基盤形成につながったと思っています。

開学 20 周年行事に参加して、東日本大震災当時の女川町をはじめとする支援活動に関して参加された皆さまから直接お聞きして、改めて建学の精神が震災の経験とともに DNA として会員の皆さまの血となり肉となって引き継がれていることを確認しました。現在、しあわせの村では「ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の実現」を目指してさまざまな取り組みを進めていますが、多くの会員の皆さまにお手伝いいただき、改めて建学の精神の実践を目の当たりにしております。

昨年度から文部科学省の支援を受け実施している「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ」では、事前に障害者支援事業所に何回も勉強に行っていた会員のスタッフの方々が、現在 38 名の障害を持つ受講生に個別に寄り添っていただき、彼らの新たな可能性を引き出す大きな役割を果たしていただいております。会員の皆さまのさまざまな活動による「再び学んで他のために」の実践こそ、震災後の総合福祉ゾーン「しあわせの村」で生まれ、かつ将来においても不可欠な取り組みと確信している次第です。

引き続き「特定非営利活動法人社会還元センターグループわ」の活動の益々の発展と会員の皆さまのご健勝を願うばかりです。今後ともよろしくお願いいたします。

「ぎやらりーわ」100号発行によせて

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔



みなさま、新年あけましておめでとうございます。また、「ぎやらりーわ」が記念すべき100号の発行となったこと、おめでとうございます。「わ ふれあい」と題して1号が発行されたのが1998年5月とのことで、そのとき当時のグループ“わ”の代表 福原 克巳様は、「年に3回程度の発行を考えている」と述べられています。

その後24年8カ月の間に100号が発行されたことになります。100号の発行は多くのグループわの会員の貢献があったからのものと言えます。シルバーカレッジの開校が1993年9月で、グループ“わ”の設立はカレッジ開校から4年後の1997年7月です。2004年にはグループ“わ”は特定非営利活動法人となりました。2017年5月には設立20年を迎えて記念事業を開催し、4年後には設立30年を迎えることとなります。

この間のグループわの活動はいろいろな方面から高く評価され感謝されてきました。現在、グループわの会員数は約1200名となっており、その会員が5部会52グループに分かれて活動し、コロナ前の2018年の活動実績は会員延べ数で2万人近くになっています。会員の持つ情熱とエネルギーには感心させられます。そのグループわの活動を紹介してきたのが情報誌「ぎやらりーわ」です。多くの人が「ぎやらりーわ」によってグループわの存在とその活動を知り、刺激を受けたのではないのでしょうか。今後は200号の発行を目指そうではないですか。グループわとカレッジは一心同体、不可分の間柄です。グループわの存在と活動はカレッジの活力の源泉となっていると言っても過言ではありません。この3年間は新型コロナウイルスの感染拡大のためグループわの活動を一部縮小せざるを得なかったことは会員の方々にはさぞ残念なことであったと推察します。パンデミックもいつかは収束します。そのときにはふたたび以前と同様の力強い活動を再開していただくことを期待しています。「ぎやらりーわ」100号発行、おめでとうございます。

グループわ 本部の活動を紹介します！

事業 しあわせの村における“グループわ”の活動について

しあわせの村の全ての施設、そこに所在する関係団体は“公益財団法人こうべ市民福祉振興協会”により管理統括されていることをご存知でしょうか。現在この振興協会主導で、“グループわ”も、しあわせの村にイノベーションを起こし、ソーシャルインクルージョンを実現するという目的のもと相互協力をおこなっています。この一環として“ユニバーサルカレッジ運営補助業務”、“しあわせの村健康倶楽部会員加入促進補助業務”を振興協会より受託し、活動しております。また振興協会と協賛で、子どもを対象とした“わいわいストリート”（5月5日）、小学生対象の“夏休み工作塾”（8月初旬）、ピバ！ハロウィンこうべこひろば（10月末）等の三大イベントを実施しています。

世代間交流にもつながり、楽しいひと時をすごせると思いますので、これらの活動にぜひご参加のうえ、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。



わいわいストリート・夏休み工作塾・ピバ！ハロウィンの様子

広報 100号記念特別号編集にあたり、創刊号(1998年)

から振り返って見て、広報誌「ぎやらりーわ」は先輩方が取り組まれてきたこと、それらへの思い入れの深さを伝え継承されてきたことの重さをあらためて認識させられました。また、ホームページを2003年に立ち上げ、さらに内外へ情報を発信されてきました。広報を担当していると区会や部会の活動情報が多く集まり、皆さんが活発に活動されているのがよくわかります。広報として、積み重ねられてきたことを確実に継承しつつ、最新情報を取り入れながら皆さんの活動を伝えられるよう読みやすい紙面づくりを心がけるとともに、ホームページはグループわの活動をさらに広く見ていただけるようけるようにしたいものです。また、グループわの活動全体に言えることですが、広報の活動を通じてさまざまな方々と人のつながりができ、本当に貴重な経験をさせていただいています。

学習支援・学校園 グループわにおける学習支援のボラ

ンティア活動は10数年にわたり携わってきており、2021年度からは神戸市教育委員会の公募事業である学校園ボランティア派遣コーディネート業務を受託し、市内の小・中学校および幼稚園での支援活動を行っています。活動内容は従来からの学習支援はもとより、運動会や音楽会など学校園行事の受付、飼育小動物への餌やり、花壇の整備や草引き、作品展の受付など多岐にわたり支援活動を行っています。現在、100校園への支援

活動が報告されています。今後とも会員皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

財務 財務部門の日常業務は、現預金の出納、会計伝票・会計システムの入力という経理の基本的な処理がメインとなっています。2019 年度から導入している NPO 法人用「Web 会計システム」は、専門知識がなくても、伝票入力するだけで主要帳簿のアウトプット、決算資料まで完結できる優れたものです。ただし、現預金の出納については、以前からのアナログ的な処理手順を踏襲してきましたが、昨年度、神戸市から受託した学校園ボランティア支援は、大勢の支援者への精算要件もあり、業務全体の効率化・安全性について見直すこととなりました。このため、ネットバンクの利用による現金出納のリスク低減と、処理効率・速達性を確保すると共に、業務処理工数の削減をはかっています。今後とも、財務部門の立ち位置から、業務のデジタル化や業務処理手順の整理を推進していきます。

総務 総務の仕事はグループわ の運営を下支えすることです。仕事は理事会、運営委員会の資料取りまとめ、会場手配から議事録作成まで、他には本部のスケジュール、駐車場管理、事務消耗品の管理と多岐にわたります。特に大切なのが会員名簿の管理ですが、グループわ のベースになるデータであり、個人情報情報の集合体ですので取扱いは特に慎重に行っています。総務の仕事は合計 3 名で担当しておりますが、経験不足で慣れない事も多く苦戦しております。

KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ

しあわせの村では令和 3 年度から、シルバーカレッジの校舎で「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ」を実施しています。これまであまり機会のなかった障害を持つ成人の生涯学習の場です。グループわ はその目標の一つ「高齢者との関わり」ということ

で、当日の運営の手伝い、異世代間交流行事、部活動などを担っています。昨年度は KSC マジッククラブのマジック教室やわらい届け隊の紙飛行機・巨大折り紙を、今年度は日本文化の部活動「和の世界」で KSC 茶道部同好会、北区会の絵手紙、ケナフの会の草木染め、三曲会のお琴体験を実施しています。

障害を持つ若者たちの学びたいという純粋な思いに感動することが度々で、私たちも元気をもらっています。



ユニバーサルカレッジの講義の様子とクラブ活動「和の世界」の絵手紙

戦争語り部 「戦争がこんなに悲惨で残酷なものとは思ひもよらなかった」学習支援平和学習語り部チームに寄せられた小学生の感想文です。戦争の怖さを知らず、今日の平和のありがたさを教えてほしいと、市立なぎさ小学校からの要請で、平成 17 年に活動が始まりました。以来 17 年間市内の小・中学校を訪問、小学校では 6 年生を対象に映像を交えながら語ります。



米軍機の無差別爆撃で市街地が焼け野原となった神戸大空襲の体験談や、防空壕に避難した多くの人々が犠牲になった時の様子、また、戦時中小学校 3 年生から 6 年生までが田舎に疎開して、満足な食事もなく、蚤、シラミに苦しんだ体験などを解説します。延べ 10 人いたメンバーも現在は 4 人となりましたが、「平和学習」の小さな一歩として活動を続けます。



本部役員

9 区会の紹介をします！地域に密着したボランティア活動・地域活動を行っています



地域での人と人とのつながり～絆～を大切に

東灘区会 東灘区はさまざまな特長のあるまちです。私たちはこのようなまちの史跡、名所をご案内するボランティアガイドの会の活動をしています。酒蔵のまち・清流のあるまち・だんじりのまち・古代民話と歴史街道のまち・文化あふれるまち・梅のまち・新しい海上のまち・阪神モダニズム源流のまちなどです。

なお、11 月 25 日「東灘区会の在り方」について臨時総会を開催し、役員の高齢化と後継者の成り手不在の問題で、役員会は解散することになりました。

＜以下本部追記＞東灘区会の皆さまには、わ 本部・他区会の支援により、従来通りの連絡網は継続いたします。

灘区会 会員数が区会の中で一番少なく、しかも会員の高齢化と若い期の入会が少ないため、活動が思うようにいっていないのが実情です。現在は在校生と JR 六甲道駅付近や都賀川の清掃を定期的に行っています。学習支援では 6 つの小学校に 7 人が活動し、学校園支援でも、近隣の小学校の運動会や音楽会の受付担当をしています。

また灘区ボランティアセンターともコンタクトを取り、区内の「ボランティアフェスティバル」に参加して、できるものがあればボランティアセンターからの要請にも応えるようにしています。今後は新会員の獲得と会員の親睦が図れる企画を増やし、区会の活性化に努めたいと思います。



学校園支援（運動会受付）

例会風景

中央区会 高齢になり現役をリタイアすると一番気になることや重要なことが「教養と教育」だと諸先輩から学びました。即ち「今日（教）用（養）がある」「今日（教）行く（育）ところがある」。真に「再び学んで他のために」を地元神戸で奉仕する私たちのグループ活動は、このことを実践する心地よい空間です。

しかし、阪神・淡路大震災から 27 年が経ち、この「…他のために」という社会還元の精神がかなり薄れて来ています。

グループわ 設立 25 周年、本誌 100 号記念の節目に当たり、今一度グループわ 創設の原点に立ち、区会や部会活動の現状を見詰め直す機会にしたいものです。

写真は現在の中央区会社会還元活動の支柱となっている学校園行事支援活動の一景です。



小・中学校作品展の支援



小・中学校書初展の支援

兵庫区会 区会での独自の活動としては、みんなの食堂、お寺の居場所、唄処、囲碁の集いなどがあります。

グループわ 本部から「学校園ボランティア」の紹介や兵庫区ボランティアセンターから「お祭り大作戦」の参加依頼等があり、私自身も参加しました。今までの半年間の活動を通して兵庫区会役員の温かい輪の中に入り、また実際のボランティア活動を通して貴重な経験が出来ていることに感謝をしています。自分自身の喜び・楽しみになればと思っています。



親睦会

北区会 「情報・親睦・つながり」の指針に沿って活動を進めています。新型コロナウイルスの感染により一部の活動に制限を受けていますが、常に注意を払いながら取り組んでいます。とりわけ 4 年前に発足した 4 つの趣味の会（折り紙・書道・写真・絵手紙はがき絵）は、各会とも 11 月に開催した合同作品展に向けて張り切って作品づくりに励みました。

また、親睦を深めようと計画しました親睦ウォーキング、グラウンド・ゴルフ大会、バス旅行にも沢山の参加をいただき喜んでいきます。一方、学習支援、学校の見守り、福祉施設の支援などのボランティア活動は、後期高齢者が多く頭がさがる思いです。70 歳前後の若い年代層がより多く支援していただけるよう願っています。



10 月 19 日、北区会親睦グラウンド・ゴルフ大会、しあわせの村球技場

長田区会 24 年前 KSC 1・2 期生主体の 16 人で発足しました。阪神・淡路大震災の復興のため何か地域に貢献したいと、地域イベント応援や河川・公園の清掃等、手探りで活動を開始したそうです。その後、施設訪問や学校支援等活動も増え、区会員も多い時には 60 人を超えました（10 周年記念誌等を参照）。現在の長田区会は会員数 40 人台で、コロナ禍対策等でボランティア活動は減り、会員交流行事は自粛してきました。活動できないもどかしさが続きましたが、役員会は今春「そろそろいいのでは？ 交流行事再開！」でまとまりました。

11 月 15 日、好天に恵まれ 2 年半ぶりの交流行事を実施しました。地域交流会を含め 19 名が参加して、初対面同士でも打ち解けて率直な交流ができ、意義ある一日になりました。

小規模な長田区会ですが、会員の健康なシルバーライフの一助となれるよう、今後もボランティア活動と親睦交流活動をすすめていきます。



11 月 15 日 3 年ぶりのバードウォッチング & BBQ の集い

須磨区会 現在 201 名の会員が在籍し、7 ブロックの地域割りによる連絡網を通して区会員相互の情報交流を図っています。当区会情報誌「須磨区会だより」も、令和 4 年 10 月に記念号となる第 50 号発刊の節目を迎えることができました。

須磨は白砂青松、歴史と文学に彩られた地であり、「須磨海岸清掃」、「多井畑厄神さんと奥須磨公園でのウォークラリー大会」、「須磨まち歩きの会」等、この地の特色を活かした活動も行っています。これから超高齢化社会に向かい、地域の絆「須磨の輪」を強めながら、ボランティアや親睦・交流の持続可能な活動の場を区会員の皆さまと共に築き上げていく事がますます重要となって来ます。「歳は取っても気は若く、活力のある」楽しい会にしたいものです。



須磨海岸清掃

ウォークラリー大会

垂水区会 現在 7 つのボランティアグループ（休会中含む）および 2 つの同好会が活動を行っています。舞子駅周辺、福田

川沿いの清掃活動や、保育園児の栽培のお手伝い、また農業体験の支援等、そして同好会はゴルフ、グラウンド・ゴルフがあります。どのグループも、高齢化、会員不足に悩んでおり、皆さまの参加をお待ちしております。福田川クリーン作戦は毎月 1 回あじさい公園から中山親水公園までの川沿いの清掃活動をしています。鯉や鴨などを観察しながら、また春には満開の桜を眺めながらの 1 時間ほどの活動となります、いい運動になり健康維持にもつながります。どのグループも体験参加も大歓迎です。よろしくお願いいたします。



西区会 神戸市西区は、面積は神戸市で 2 番目の大きさであり、人口はトップです。1982 年 8 月 1 日垂水区から分離し、ニュータウンもあり、いろいろな町もあります。シルバーカレッジの在学生も北区について多いと聞いています。

西区会では毎年、柿狩りを地元の友清で 10 月に実施、バス旅行も秋に実施しております。また、新たな取り組みとして本年度よりグラウンド・ゴルフを計画、実施しました。高齢者のスポーツとして最適と考えられており、これからも実施していきたいと思います。



西区会はボランティアをしているグループがたくさんありますが、今はコロナの関係でほとんど休止状態です。これが早く元にもどればいいのと思います。西区会の催事もボランティアも怪我のないように楽しく実施継続できればと思います。



各区会長



部会は5つあり52のグループが ボランティア活動・社会貢献活動をしています

福祉部会 所属グループは8団体で、さまざまなグループが集まっています。知的障がいを持たれる方をサポートするグループ、高齢者のリクリエーションのお手伝いをする会、こども食堂を運営し子どもを中心に食事のサポートをするグループ、居場所を提供するカフェ、救急ボランティア、フレイル予防のお手伝い、児童施設にクッキーを提供するグループがあります。

コロナの影響をうまくかわしながら活動を再開できたグループが増えています。今後の事を考えると、多数のグループは、新規メンバーが入会してこないで会のメンバーの高齢化がおきていることが悩みです。

カレッジの現役生に対して、グループわに入会するときに各グループをもっとアピールさせてもらいたいとの要望が多いです。



「みんなの食堂・なかみちこみち」食料の配布状況

国際部会 わ 本部他、神戸市観光局、PHD協会、神戸シアトル姉妹都市協会、KICC、YMCA 等の国際交流団体と連携し、種々の国際親善活動の支援を行っています。

部会は、部会員全員で取り組む「部会行事グループ」と、「PHD協会支援」、「英語点字活動支援」、「台湾交流の会」の4グループで活動しています。定年が60歳時代のシルバーカレッジ学生は60代が大多数であり、同様にグループわ 会員も60代が主力でしたが、昨今は70歳まで働く時代となり、まず国際部会への新規会員が著しく減少し、既存会員も高齢化してきました。部会活動の主力はほぼ全員が70代半ばとなり、先細り感は否めません。今後とも、市内の国際交流団体と連携を維持し、無理のない程度に活動を継続したいと思います。



華道体験の通訳ボランティア活動

環境部会 地球環境の悪化を防ぎ、良好な自然環境を維持するためにさまざまな取り組みをしており、2022年度は10グループが所属しております。活動分野は自然環境の保全・環境にやさしい農業・都市環境の整備等です。

今回は、通常のPRチラシやポスターには書いていない部分を紹介します。各グループの結成の経緯は①地域のニーズに対応、②グループ学習の延長、③KSCのクラブやボランティア活動の継続に分類されます。①や②のグループでは新規メンバーの加入が少なく、リーダーの交代メンバーがいない等グループの持続に苦労しています。また全体的に見ても新規加入者が減少しています。環境部会の各グループがSDGs（持続可能な開発目標）活動を行うと、どのジャンルに該当するかを考えてみました。



神戸びかびか隊 神戸マラソンで美化活動

3 すべての人に健康と福祉を 	有機農法を考える会	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	創エネ神戸	11 住み続けられるまちづくりを 	花山梅林会 神戸びかびか隊 創エネ神戸 愛 Deer∞
12 つくる責任つかう責任 	愛 Deer∞	15 陸の豊かさも守ろう 	里山グループ・ケナフの会 ビオトープの会・野鳥と自然観察会 花山梅林会・神戸びかびか隊 愛 Deer∞・神戸伝統野菜保存会 有機農法を考える会		

* 私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

文化部会 23 クラブ 819 名（7 月現在、わ非会員を含む）の会員で構成されています。その活動は「シニア世代の学びを社会に活かす」というシルバーカレッジの基本理念を体現しています。伝統文化や音楽など、それぞれのクラブの特技を生かしたボランティア活動は、高齢者施設や地域組織、学校園や児童館、しあわせの村など市内の幅広い年齢層に受け入れられています。演技を披露し参加者の笑顔に出会うことで、会員もまた元気をもらっています。

この活動は、不断の練習による高いレベルの技能に支えられています。クラブで定期的に集まり、歌や演奏・演技などの練習を重ね、ときには発表会を開くことが、会員を支える原動力となり、生きがいともなっています。



文化部会メンバー

ところが、足かけ 3 年におよぶコロナ禍のもとで、各クラブとも発表会やボランティアなどに大きな制約を受けました。とりわけ大人数での発声や吹奏をともなう活動は依然として制限されています。その中でも、ほとんどのクラブが例会・練習を絶やさず、感染対策を講じながら、さまざまな取り組みを続けてきました。秋以降、高齢者施設への訪問が少しずつ再開されてきており、クラブの発表会も始まっています。しあわせの村等のイベントも、文化部会をはじめとする多くのクラブの力で成功させてきました。グループわ の



各部会長

「交歓会」は 3 年ぶりに復活できました。各クラブの皆さんの努力に、あらためて敬意を表したいと思います。

新規の会員獲得や後継者養成などシニア世代のクラブ共通の悩みも抱えていますが、引き続き KSC 在校生への働きかけや、ホームページの活用など、知恵を出し合って前に進みたいと願っています。



文化部会代表者会議

いきがい部会 7 グループは外部の方との「いきがい」を求める活動とメンバーの「いきがい」を膨らませる活動をしています。今年度も昨年同様にほとんどのグループが新型コロナ感染予防のため、活動を休止せざるを得なかったです。活動できたグループも、感染予防のために自粛する部員が多くあり、ボランティアの順備に時間が掛かり苦労しました。吹矢グループは、感染防止のため、子供用使い捨て吹矢をプレゼントして体験してもらい成功しました。ガイドグループでは、観光客が県民割等で増加傾向にありますが、コロナが収束したわけではないのでより一層の感染防止対策をして活動しています。フォークダンスグループは密になりやすく感染対策が難しく、ボランティアの施設訪問等はできていない状況です。太極拳ゆったり体操は、名谷駅前広場でのボランティアを実施し徐々に参加者が増加しています。



有馬観光ボランティア

KSC 男声合唱団第 8 回定期演奏会

ある男声合唱団の演奏を聴いたのをキッカケに、男声合唱の魅力に引かれていつかは、その輪の中に入って歌ってみたいという思いがありました。でも合唱未経験で声も出ない状態ではなかなか踏ん切りがつきませんでした。神戸市シルバーカレッジに入学したのを機会に、思い切って KSC 男声合唱団に入団しました。

KSC 男声合唱団は、2000 年神戸市シルバーカレッジ学生のクラブ活動として発足しました。当初は団員数 7 名から今では学生・OB を含めて 59 名の合唱団に成長しました。私たちは合唱を通してボランティア活動を行うとともにシルバーカレッジの諸活動、各種団体の演奏会および、定期演奏会等の演奏活動を行っています。

この度、5 年ぶりに第 8 回定期演奏会を 10 月 22 日、神戸文化ホール大ホールにて開催しました。ここ数年は、コロナ禍で十分な練習もできず、訪問演奏等の機会もなくなり、モヤモヤした状態が続いておりました。そんな状況を打破すべく、第 8 回定期演奏会に取り組みました。

演奏会は、1 部を石原祐介先生指揮「男声合唱組曲『月光とピエロ』」、2 部を団員指揮者による「懐かしい昭和・平成の歌」をテーマに 6 曲、3 部を斉田好男先生指揮「男声合唱組曲『雪と花火』」、の 3 部構成です。

当日は 1,400 名のお客様をお迎えし、指揮者のタクトに誘われて、コロナ禍で制約を受けながら練習をした日々を思い浮かべながら「歌える喜び、伝わる喜び」を身体いっぱいに表示し、皆さまに披露することができました。ありがとうございました。

最後に、みなさまの入団をお待ちしております。一緒に歌いましょう。



ビバ！ハロウィンこうべっこひろば

10 月 30 日、しあわせの村 芝生広場にて、小学生までを対象とした、ビバ！ハロウィンこうべっこひろばを開催しました。

晴天に恵まれ、午前・午後とも受付開始前から多くの方が並ばれて、午前は子ども 310 名、保護者 290 名、午後は子ども 410 名、保護者 352 名にご来場いただきました。グループわ の各ボランティアグループ、スタッフ 185 名の協力により、ステージ・各テントともに、子どもが楽しめるものというコンセプトのもと工夫を凝らした出し物で、イベントは大盛況でした。昨年に続き、しあわせの村ユースボランティアの協力も得て、世代間交流もできました。今年も、感染対策で人数制限がありましたが、来年こそ来場した子どもたちが全員参加できることを願っています。



「ぎやらりーわ」創刊号からこれまでの歩み

年	月	号	主な記事
1998	5	1	創刊号 “わ”ふれあい 1号発行 <B5版縦書き>
	9	2	地域密着型へ、第1回臨時総会案内、トンボサミット
	10	号外1	“わ”の活動について（卒業生向け）
	10	3	臨時総会開かれる <本号より横書きに>
1999	1	4	生活用品のバリアフリー化
	3	5	新しい運営を模索して…外国人との交流親睦会
	8	6	春の外国人との国際文化フォーラム開催
	10	7	大切にしたいボランティアのこころ「イベントの成功に感謝」<本号よりA4版>
2000		8	休刊
	2	9	くらしの環境を振り返り…見渡して…そして！
	5	10	あれから2年“変わったなあ…”
	7	11	グループ“わ”新代表あいさつ、“わ”この1年をふりかえって…(前代表)
2001	9	12	ボランティアに思う、「KSCみんなのふれあい2000」を終了して
	9	13	日韓クルージング特集号
	11	14	人形紙芝居と昔あそびで子供とあそぶ…ボランティア考
	2	15	1000人ゴスペルのイベントを終えて
2002	8	16	グループ“わ”代表に再び就任してのご挨拶
	11	17	在日ベトナム人（難民）を学園祭に招待
	5	18	いきいきヘルシースポーツのつどい2002実施！
	7	19	正副委員長抱負を語る
2003	10	20	秋晴れの学園祭に参加、NPOへの道
	2	21	どうなる、どうするこれからの“わ”、ホームページの試作版の紹介
	5	22	新体制説明会 2回開催、開きました“わ”のHP
	7	23	第5回定期総会（会費制へ体制移行）
2004	10	24	グループ“わ”の現状、開校10周年記念式典
	4	25	2004年の年頭に当たって
	4	26	第6回定期総会 県から正式に認証NPO社会還元センターグループわ
	7	27	NPOグループわの初仕事…こへ環境未来館の管理運営
2005	10	28	小さな池に託す大きな夢-こへ環境未来館-ゼロから始めたビオトープ作り
	1	29	2005年の年頭に当たって
	4	30	NPO法人第2回定期総会を迎えて
	7	31	小学生に勉強を教えて見ませんか-学習支援活動がスタート-
2006	10	32	会員どうしの助け合いネットワーク、小学生の学習をサポート
	1	33	2006年の年頭に当って、「グループわ」と「同窓会の説明会」
	4	34	第1回グラウンドゴルフ大会を開催
	7	35	第3回定期総会-活動内容の充実と拡大をめざす-
2007	10	36	更なる飛躍を！活動開始 グループわ 10周年記念事業実行委がスタート
	1	37	ボランティア活動に会員82%が参加-会員対象のアンケート調査の中間報告-
	4	38	新しい活動の場が誕生…須磨ーノ谷プラザ、いじめ電話相談、パソコン講習の会
	7	39	全員参加で式典を盛り上げよう…NPO法人グループわ 設立10周年記念事業
2008	10	40	グループわ 10周年記念事業-矢田市長を迎えて盛大に挙行-
	1	41	2008年の年頭に想う、グループわ 新入会員募集説明会
	4	42	本部業務組織の改革案纏まる
	7	43	第5回定期総会-ボランティア活動の輪拡大に全力投球-
2009	10	44	平成20年度第1回『学習支援の集い』開催さる
	1	45	2009年の年頭に想う
	4	46	区会活性化対策大綱案纏まる
	7	47	第6回定期総会『新しいわの旗印の下で、ボランティアの輪を広げよう！』
2010	10	48	区会活性化の取組み本格化！

年	月	号	主な記事
2010	1	49	2010年の年頭に想う（理事長）
	4	50	【グループわ 表彰制度発足】第1回優秀会員・優秀グループの表彰者決定
	7	51	わいわいストリート…、第7回定期総会開催 <本号よりカラー写真表紙>
	10	52	オーKIMONO ワンダフル（国際免疫学会にて）
2011	1	53	カラフル秋色の野鳥探訪
	4	54	梅林をふやそう（観梅会と花山小6年生による卒業記念植樹）
	7	55	ワイワイ広場（わいわいストリート）、カレッジOB東北へ 震災ボランティア
	10	56	東北支援チーム奮闘
2012	1	57	東北支援 第2陣、11か所で開催
	4	58	花実の森で遊歩道作り、もう1年、顔の見える東北支援を
	7	59	歓声はじける芝生広場（わいわいストリート）、第9回総会開催
	10	60	東北へ第3次隊、15か所公演
2013	1	61	紅葉の秋色を楽しむ（秋の森林浴ハイキング）
	4	62	東北支援活動に大臣感謝状（3次にわたる支援チーム派遣を評価）
	7	63	東北へ第4次隊 交流の七夕、第10回定期総会（東北支援・学習支援を重点）
	10	64	花実の森で楽しく学習、開校20周年の記念シンポジウム
2014	10	特別号	開校20周年記念 ギャラリーわ 特別号
	1	65	お買いものサポーター始動、東北支援をもう1年継続
	4	66	第4回「地域交流と文化の祭典」、第5次東北支援チーム7月に派遣
	7	67	女川・名取へ第5次チーム、第11回定期総会（学習支援・地域連携 ニーズに応える）
2015	10	68	かえっこバザールinKSC、戦争の悲劇 子どもに語り継ぎ14年
	1	69	阪神から東北へ…震災シンポ開催、女川町長熱き思いを語る
	4	70	座談会 わの明日を語ろう、第6次チーム、7月に仙台・女川へ
	7	71	第12回定期総会開催、東北第6次派遣（心が通った東北交流）
2016	10	72	夏のイベント盛り沢山、東北現地派遣今年で終了
	1	73	銭太鼓百人打ち、水の科学博物館の運営に参加、第6次チーム報告会
	4	74	花山梅林会 卒業祝い小6と梅植樹、水の科学博物館(わ)の業務スタート
	7	75	第13回定期総会 組織の点検整備と子供たちの健全育成を重点に！
2017	10	76	夏休み工作塾 ソーラーカー作り教室、熊本地震サポート隊11月派遣
	1	77	熊本地震サポート隊 益城町訪問、わ 設立20周年式典は7月22日
	4	78	KSC民謡クラブ発表会、グループわ 20周年記念行事の概要
	7	79	第14回定期総会を開催！、わ 設立20周年特集
2018	10	80	“たのしいあきまつり”（こべっこランド）、グループわ 20周年特別企画
	1	81	里山和楽会 環境体験学習、戦争体験語り部、学習支援の集い
	4	82	コーラスタミ サードコンサート、20周年を迎えたグループ（コーKSC、書道部、すみれ）
	7	83	第15回 定期総会開催、国際部会紹介-「部会行事」参加者を増やしたい！-
2019	10	84	わ フェスティバル イン 水博、環境部会紹介-良好な自然環境を維持したい！-
	1	85	わの フォイルサポーターの取組、文化部会-伝統文化のさらなる継承を！-
	4	86	西日本豪雨災害 復興サポート隊、文化部会(音楽系)紹介-“さらに幅広い活動を”-
	6	87	第16回 定期総会開催、交歓会、いきがい部会紹介-8グループが連携
2020	10	88	夏休み工作塾、区会紹介（東灘区・灘区・中央区）
	1	89	混声合唱団コーKSC 第12回 定期演奏会 区会紹介（兵庫区、北区、長田区）
	6	90	第2回“わ”んだーらんど（こべっこランド）、区会紹介（須磨区、垂水区、西区）
	7	特別号	[Web版]第17回 定期総会開催、新役員体制スタート
2021	10	91	[Web版]夏休み工作塾 8/8開催、財政再建プロジェクト
	1	92	ビバ！ハロウィン こべっこひろば、特集 財政再建プロジェクト報告
	4	93	親子で楽しむ“わ”んだーらんど、特集：コロナ禍の新たな活動のカたち
	7	94	[Web版]第18 回定期総会開催、新日理事長挨拶
2022	10	95	[Web版]夏休み工作塾、特集：学校園、ユニバーサルカレッジ特集
	1	96	ビバ！ハロウィン、2022年に向けて（年頭のご挨拶）、コロナ禍での活動再開
	4	97	本部活動（ユニバーサルカレッジ、学校園ボランティア、しあわせの村健康倶楽部）
	7	98	[Web版]第19回定期総会開催、2部交歓会、わいわいストリート
2023	10	99	[Web版]夏休み工作塾、ボランティア活動、ユニバーサルカレッジ、戦争の語り部

グループわ 25 年の歩み

(敬称略)

西暦	和暦	月日	おもな出来事	会員数	理事長
1993	平成 5	9 月	しあわせの村に高齢者を対象とした神戸市シルバーカレッジが開校		
1995	7	1 月 17 日	阪神・淡路大震災が発生 しあわせの村が災害救援活動の拠点 (KSC は救援物資配送センター) となった。在校生の 6 割が登校して救援物資の仕分け、村内仮設住宅へ支援などボランティアで活躍		
1996	8	9 月 17 日	ボランティア活動を実践する日として JOY LUCK DAY を設ける		
1997	9	7 月 22 日	「神戸市シルバーカレッジ社会還元センター 愛称：グループ“わ”」を設立 ボランティア活動を支援する事業を開始	304	委員長＊ 福原 克巳＊
1998	10	3 月 7 月 8 月	環境部会の前身 E 部会を結成 有馬温泉観光ボランティアガイド開始 明石海峡大橋の完成に伴い JR 舞子駅で観光案内と清掃活動開始	467	福原 克巳＊
1999	11	5 月 17 日 8 月	グループ“わ” 第 1 回定期総会開催 しあわせの村 10 周年記念事業に参画	601	松井 孝＊
2000	12	4 月	外国人との春の交流運動会実施 7 月 KSC 卒業生・在校生親善交流会実施	749	中島 洋吉＊
2001	13	1 月 2 月	神戸市復興記念イベント「花と光」に参画 (1000 人のゴスペル大合唱ほか) KSC 学生募集願書受付支援開始	906	中島 洋吉＊
2002	14	2 月 15 日 12 月	(財)長寿社会開発センター委託による高齢者向けパソコン講習会開始 (年 6 回) グループ“わ” 「5 年のあゆみ」発刊	887	久保 雅一＊
2003	15	4 月 5 月 9 月	グループ“わ” ホームページ開始 第 5 回定期総会開催 (会費制への移行承認) KSC 開校 10 周年記念事業に参画	925	赤司 松美＊
2004	16	4 月 27 日 5 月 6 月 10 月 16 日	特定非営利活動法人社会還元センターグループわ として認証される NPO 法人として第 1 回定期総会開催 こうべ環境未来館受託業務開始 (2015 年 3 月終了) 環境学習活動で神戸市環境功労賞受賞	870	理事長 赤司 松美
2005	17	7 月 9 月	こども電話相談業務開始 (2020 年 5 月終了) 市民福祉向上の貢献で神戸市長から市民福祉奨励賞を受賞	1,007	納 利春
2006	18	9 月 15 日	高齢者社会参加活動の模範として内閣特命担当大臣より「参加章記念盾」を受ける	1,130	郷 肥三
2007	19	4 月 9 月 1 日	須磨一ノ谷プラザ管理運営受託 (2023 年 1 月終了) グループわ 設立 10 周年記念事業式典開催	1,140	郷 肥三
2008	20	5 月 10 月	しあわせの村タイアップ事業スタート 5 月・11 月「しあわせの村開村 20 周年記念わいわいストリート」および「バードウォッチング」共催 グループわ ロゴマーク制定	1,140	加藤 勇治
2009	21	4 月 12 月	車いすテニス大会支援 (ダンロップオープン) 賀川豊彦献身 100 年記念委員会から真愛ホームへの奉仕活動で第 1 回賀川賞を受賞	1,146	加藤 勇治
2010	22	8 月 10 月	夏休み水の科学博物館タイアップイベント開始 兵庫県助成事業「里山ふれあい森づくり (住民参加型)」環境部会が参加し事業開始	1,166	西田 圭一
2011	23	4 月 12 日 10 月 30 日 11 月 20 日	「3.11 東日本大震災」を受けて東北支援プロジェクト立上げ、義援金募集開始 福祉医療機構助成事業で、第 1 回「地域交流と文化の祭典」実施 第 1 回神戸マラソンに一ノ谷プラザが協力	1,153	西田 圭一
2012	24	1 月 12 月	パソコン講座開講 神戸市長から学童支援事業に対し「神戸未来を担う子ども育て賞」を受賞	1,254	西田 圭一
2013	25	3 月 7 月 10 月 9 日	東北支援 2 年間に及ぶ活動が高く評価され、グループわ に厚生労働大臣感謝状 夏休み工作塾(しあわせの村研修館)7 クラブが協力 KSC 開校 20 周年記念式典開催、KSC 学長より感謝状を受けた グループわ 記念シンポジウム「阪神から東北へ～KSC の震災ボランティア活動」報告会を開催	1,322	堺 汎
2014	26	3 月 30 日 10 月	第 4 回「地域交流と文化の祭典」参加 10 団体のパフォーマンスと体験教室を開催 神戸市環境奨励賞受賞 (神戸ビカビカ隊)	1,322	堺 汎
2015	27	1 月 16 日 4 月	震災シンポジウムを須田女川町長講演や阪神・淡路大震災講演など多数参加で開催 夢基金プロジェクト花実の森「カブト虫生育観察」開始	1,309	小畑 浩昭
2016	28	4 月 1 日 11 月 11 日	神戸市水の科学博物館の指定共同事業体として業務開始 (2020 年 3 月終了) 4 月の熊本地震の被災地 益城町の仮設団地 4 か所に 10 名を派遣 たご焼きパーティーとお好み芸芸	1,442	小畑 浩昭
2017	29	5 月 10 日 7 月 22 日	グループわ 設立 20 周年記念事業開催 (～7 月 23 日) 神戸市長、KSC 学長らを招き記念式典開催	1,444	水町 亮治
2018	30	1 月～8 月 7 月～11 月 11 月 12 月	兵庫医療大学との当帰葉茶の効能研究・日本酒の味わい調査研究に参画 西日本豪雨サポート募金募集 フレイルチェック会に市民サポーターとして参加	1,478	水町 亮治
2019	令和 1	2 月、6 月 5 月～11 月	豪雨で被害を受けた倉敷市真備町にお好み芸芸隊・たご焼き隊訪問 フレイルチェック会支援を開始(奇数月に実施)	1,452	大槻 隆文
2020	2	1 月～5 月 4 月～5 月 10 月 25 日	台風 15・19 号災害募金を募集し、被災地に寄付 (12 月、神戸市社協より感謝状を受賞) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動自粛 「ビバ！ハロウィンこうべっこひろば」を秋のイベントとして開始	1,292	大槻 隆文
2021	3	4 月 1 日	学校園ボランティア等派遣コーディネート業務の受託 KOBÉ しあわせの村ユニバーサルカレッジ運営支援業務の受託	1,218	南 謙二
2022	4	5 月 5 日 5 月 28 日	こどもの日イベント「わいわいストリート」しあわせの村広場で 3 年ぶりに開催 第 19 回定期総会開催に加えて、3 年ぶりに第 2 部交歓会を開催	1,180 (11 月末)	南 謙二

◆カレッジだより◆

■ジョイ・ラック・デイ 1月11日

■令和5年4月入学 学生募集

出願期間：令和5年1月16日（月）～27日（金）
シルバーカレッジ・神戸市の主要施設（区役所・支所・出張所・連絡所、区文化センター）しあわせの村内施設などで配布
出願：シルバーカレッジ事務局へ持参、または郵送、ホームページからも応募可能

◆わだより◆

■27期生 卒業生へのグループわ 入会案内

2023年1月10日（月）3年生ホームルーム時間に実施

■グループわ 新入会員受付

2023年1月10日（月）～3月24日（金）ふれあいホール

2023年1月10日（月）以降随時

グループわ 本部（カレッジ2階）にて受付

在学中でも入会可能

一人でも多くのご参加をお待ちしています。



■学校説明会の開催

令和5年度のご入学をお考えの方に、下記の日程で学校説明会を開催します。

期間：令和5年1月16日（月）～20日（金）

会場：シルバーカレッジ2階 学習室7

定員：各回 20名（事前申込制）

■地域交流会 3月16日（木）、17日（金）

■第27期生卒業式 3月24日（金）

■しあわせの村ユニバーサルフェスタ

2023年3月11日（土）11時～16時

場所：しあわせの村内

対象者：当日来村者（参加無料）、支援学校（案内送付）

■第20回定期総会、2部交歓会

下記日程で実施に向けて準備中

開催日：2023年5月27日（土）

場所：カレッジホール・学習室他

※出演・出店クラブ募集 1月24日（火）まで

☆トピックス☆

■グループわ 会員親睦グラウンドゴルフ大会

11月16日、雲一つない秋晴れの中、しあわせの村多目的運動広場で開催されました。14組41人の会員が、8ホール2ラウンドの個人戦で、熱戦を繰り広げ楽しい交流ができました。優勝は赤松茂さん（北区）スコア38、準優勝は嶋谷勉さん（西区）スコア40、3位は柞磨信一さん（北区）スコア41でした。とまり賞（ホールインワン）も4人が達成し、飛び賞など各賞受賞おめでとうございます。



■オープンキャンパス

学生募集に先立ち11月14日～17日の4日間予約制で開催されました。各日20名で施設・授業見学をグループわで対応しました。質問も多くシルバーカレッジに関心を持っていただきました。興味あるコースに入って是非カレッジライフを楽しんでいただきたいと思います。

■2022年度「学習支援者の集い」

12月23日（13時～14時30分）学習室1・2にて現状の報告と質疑応答がありました。

発表者3名、出席者53名でした。

■野鳥観察会

12月4日、しあわせの村内にて、17組34名（うち子ども8名）が参加されて開催しました。双眼鏡を手に楽しみました。「野鳥と自然観察の会」から3人の協力を得て、確認できた野鳥は23種（オシドリ・マガモ・カワウ・ヤマゲラ等）でした。



✎編集後記（広報）✎

1997年7月、建学の精神「再び学んで他のために」の理念を实践するため「神戸市シルバーカレッジ社会還元センター 愛称：グループわ」を設立、その後、2004年4月「特定非営利活動法人社会還元センターグループわ」として発足し、現在にいたっています。コロナ禍になり、ほぼ3年で世の中がすっかり変わってしまいました。活動できない時期もありましたが、ボランティア精神は着実に新しい仲間を引き継がれています。会員の高齢化など問題も山積ですが、ぎやらりわ100号発刊の節目にあたりカレッジ学生の皆さんに「グループわ」のことを少しでも知っていただきたいと思います。

区会、部会、本部と力を合わせて、微力ながら新入会員へのアピールやボランティア活動のお手伝いができると思います。